

項目 東京都の「後発医薬品（ジェネリック医薬品）に関するアンケート結果」（令和2年3月）より抜粋

後発医薬品の採用や使用促進に当たり「安定供給」を重視する割合が高い。

安定供給

- 後発医薬品の使用を進めていく場合、重要と考える条件（複数選択）
 - 安定的な供給 81.0%＜薬局第1位＞
- 後発医薬品を採用する際に重視すること（複数選択）
 - メーカー・卸売業者が十分な在庫を確保し、安定的に供給されていること 75.7%＜病院第2位＞、72.2%＜薬局第2位＞
- 後発医薬品に不安感を抱いたきっかけや理由、内容等
 - 供給不足による院内採用薬の変更 54.3%＜病院第1位＞

患者や医療関係者は、先発医薬品との効果の同等性や品質を重要視している。

品質に対する信頼性の確保

- 後発医薬品を使用するに当たって重要だと思うこと（複数選択）
 - 効果（効き目）が先発医薬品と同じであること 81.7%＜患者第1位＞、副作用の不安が少ないこと41.6%＜患者第3位＞
- 後発医薬品を採用する際に重視すること（複数選択）
 - 先発医薬品と適応症が一致 79.2%＜病院第1位＞、74.8%＜診療所第1位＞、74.7%＜薬局第1位＞

薬局・医療機関に対して、後発医薬品の品質・有効性・供給に関する情報が不足している。

情報提供の方策

- 後発医薬品に不安感を抱いたきっかけや理由、内容等（複数選択）
 - 添加物の違いに不安感
 - 68.3%＜診療所第1位＞、65.4%＜病院医師第1位＞、51.7%＜薬局第1位＞
 - 先発医薬品との効果の違い
 - 60.3%＜診療所第2位＞、58.7%＜病院医師第2位＞、41.2%＜薬局第2位＞
 - 供給に関する情報量が不足 51.9%＜病院第2位＞
- 後発医薬品に関して、不足していると感じる情報（複数選択）
 - 添加物 53.4%＜診療所第1位＞、50.0%＜病院医師第1位＞、31.6%＜薬局第2位＞
 - 副作用 48.2%＜診療所第2位＞、44.9%＜病院医師第2位＞
 - 適応症 36.3%＜薬局第1位＞

後発医薬品（ジェネリック医薬品）アンケート結果から見た都の現状（2）

項目 東京都の「後発医薬品（ジェネリック医薬品）に関するアンケート結果」（令和2年3月）より抜粋

後発医薬品の安心使用促進に向け、患者・医療関係者に対する一層の普及啓発や保険者の取組への支援が必要

○ジェネリック医薬品について聞いたことがある 96.4%（患者）

○ジェネリック医薬品について知っている内容（複数選択）

→認知度が高い内容 先発医薬品と比べて薬の金額が安い 92.9% <患者第1位>

認知度が低い内容 国で承認された薬 51.8%（患者）

○後発医薬品を積極的に処方する理由

→患者の経済的負担を軽減できる 79.6% <病院医師第1位>、75.8% <診療所第1位>

○後発医薬品を積極的には処方しない理由（複数選択）

→後発医薬品の品質や医学的な理由（効果や副作用）に疑問 90.0% <病院医師第1位>、71.1% <診療所第1位>

○保険者における後発医薬品の使用促進に向けた取組内容（複数選択）

→差額通知の実施 89.4% <保険者第1位>、希望カード等の配布 76.7% <保険者第2位>

使用促進に係る
環境整備



○令和2年3月に実施した「後発医薬品（ジェネリック医薬品）に関するアンケート結果」によると、以下の結果が見られた。

- ・患者は、「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」という言葉について認知度が高い一方、国で承認された薬であることなどは認知度が低い。また、先発医薬品との効果の同等性を重要視している。
- ・医療関係者は、先発医薬品との効果の同等性や品質、安定供給などを重要視している。